

平成30年 第1回 愛別町総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成30年12月4日(火)
開会 午後2時55分 閉会 午後3時47分

2. 場 所 愛別町総合センター 1階 第1会議室

3. 出席者 愛 別 町 町 長 前佛 秀幸
愛別町教育委員会 教育長 大山 一成
委 員 中田 栄一
委 員 長屋 修二
委 員 森定 典子
委 員 三嶋 健嗣

事務局関係

総務企画課長	山中富士男
総務企画課長補佐	武田 典明
総務企画課総務係主事	田邊紗央理
教育委員会教育次長	谷田 道明
教育委員会主幹	金子 優美
教育委員会学校教育係長	河合みどり
教育委員会社会教育係長	端場 大竜
教育委員会スポーツ推進係長	田邊 計吾
教育委員会教育推進アドバイザー	朝倉 信

4. 協議事項 (1) 平成31年度教育予算(事業)等について

5. 議事経過の内容 別紙のとおり

発言者	発言概要
山中課長	皆さんお忙しい中お集りいただきありがとうございます。定刻前ですが、皆さんお揃いですので、本年度の愛別町総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして、前佛町長よりご挨拶申し上げます。
前佛町長	皆さん、こんにちは。平成30年度の総合教育会議ということで、皆さん方それぞれお忙しい中、ご参集をいただきました。行政部局と教育部局がお互いに教育について共通認識を持つという目的を持っての総合教育会議であり、行政と教育行政と共に教育の向上に向けて取り組んでいくということで、皆さん方のご審議をいただきたいと思います。今年は、非常に天候がめまぐるしく変化した年でありまして、農作物も順調にいかなかった部分もありました。今年は雪が大変遅く楽をした部分もありますけれども、これから雪で吹雪いてくるというような予報もあります。また、今年は、非常に災害の多い年でした。台風が4つ、7月から9月、10月と、北海道に上陸、接近した年でもあり、今年はまた北海道において経験したことのない胆振東部地震ということで、全道が停電に見舞われ、愛別町も半分が半日駄目で、あと半分が1日停電をしたという経験をしたところであり、災害に対して改めて対応をしっかりとしなければならないなと思っているところです。さて、今年の色んな気候の中で7月には全国的な猛暑ということで、空調設備の整備が話題になりましたが、北海道においてはお陰さまで、気候的に涼しい部分もあるのかなと思っているところです。何よりも子ども達の環境と、それから、学力の向上に向けて皆さん方の尚一層のご協議をいただきたいと思います。今日は、新年度に向けての教育予算についてのご審議、並びに愛別町における教育環境における皆さん方のご意見とご協議、そんなことで情報交換いただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。
山中課長	この後の議事録署名委員の指名等につきましては、愛別町総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により、町長が議長となり進行しますので、よろしくお願い致します。
前佛町長	それでは、私の方から指名をさせていただきたいと思います。三嶋教育委員さんと大山教育長、お二人にお願い致します。 それでは、議長として進行させていただきます。よろしくお願い致します。まず、レジュメに載っております協議事項1点目の平成31年度教育予算、事業等について、事務局の方から説明お願い致します。
谷田次長	(平成31年度教育予算(事業)等について、資料に基づき説明)
前佛町長	事務局の方から31年度予算と絡めて方向性の説明をさせていただきました。新規事業の関係、今後の課題ということで、2つに分けておりますので、まず、新規事業につきまして、皆さん方のご意見を頂戴したいと思います。よろしくお願い致します。

	<p>1つずついきますか。公民館関係、公共施設分野の長寿命化計画につきましては、事務局から説明させていただきましたが、愛山の公民館、東町の農業研修センターと、今度は、伏古生活改善センターを優先順位1番として進めていきたいということです。また、改めて別な公共施設の長寿命化計画も一緒に進めていきたいということでございまして、その計画に沿って進めていくと、このことにつきましてどうでしょうか。</p> <p>こんな進め方でよろしいですか。</p>
一同	はい。
前佛町長	では、このような形で進めていきます。
大山教育長	<p>長寿命化の個別計画の話ですが、年度ははっきりしないんですが、この個別計画を策定しないと文科省の補助事業の優先順位が下がるというような状況にあるそうです。教育次長からお話があったとおり、できれば早期に計画を策定し、今後の課題にもありますとおり、小中一貫を目指した施設の改築なり、新築なり、そういう方向に向かっていけるような事前準備をお願いできればと考えているところです。</p>
前佛町長	<p>それぞれ小学校、中学校も老朽化している部分がございますし、社会教育施設についても、大きな施設については、年数が経っている部分があります。公共施設の長寿命化計画、一般の行政分野の施設の計画に沿ってということを立てておりますので、それと整合性を図りながら進めていかなければならないと思っていますところです。そんなことでよろしいでしょうか。</p>
一同	はい。
前佛町長	<p>それでは、新しい学習指導要領の対応ということで、それぞれ学校現場で対応していただいておりますが、小学校では今移行期間、32年度から、そして、中学校が33年度からですか。学校の先生方、大変ご苦労いただいているところかと思っておりますし、また、英語関係が小学校で授業化されるという中で、大変短い期間の中でその措置をしていかなければならないということで、教育行政、学校現場におきまして、大変ご苦労いただいていると思いますが、ご意見ございましたらお願い致します。</p>
中田委員	<p>今、学校の先生が働き方改革だとかって言われており、文科省で、次々色々なことを言うてくるが、先生を減らしながら、新しいことをやらせようとしているから、先生が益々大変になってくると思う。そんな中で、大きな学校は割と先生確保できるんだろうけど、わが町のような子どもが少ないところは、先生1人削られたら大変なことになるので、そういうときには、英語なり、パソコン関係だとか、専門的な知識を持つ人を、学校に協力してもらおうということで、学校の先生ではなくて、独自に専門家を導入することもこれから必要になってくるの</p>

	<p>ではないか。特に今、中学校の部活動も、なかなか指導者がいないということで、学校の先生にばかり負担が出てくるので、町内から、または町外からでも、指導してくれる人を頼むということを考えていかなければいけないと思うんです。そのためには予算が必要。</p>
前佛町長	<p>学校の先生方は、特にへき地に行くと自分の教科を持つだけではなくて、色んなことに対応しなければならないということで、今、中田委員さん言われたような状況にあるということなんです。そこで、ボランティアであれば一番良いのですが、そうはいかない部分があるものですから、ある程度の予算措置をしながら、指導者の確保に向けてという部分を進めていかなければならないのかと思っているところです。色々と色分け、住み分けをしながら、教育行政と一般行政とが連携していくことが大事かと思っているところです。予算も、総額予算があるものですから、教育行政の側からの予算要望を、総体の予算の中でしっかりと協議をしていきたいと思っております。</p> <p>現実的にはどうなんでしょう、校長、教頭先生の話の中で、小学校、中学校の先生方の勤務時間は、益々厳しくなっているのか。</p>
大山教育長	<p>中学校の部活動の関係は、やはり顧問についた方についてはそれ相応の勤務時間数にはなっているかと思っています。小学校についても、授業改善に向けた実質的な準備ですとか研究だとか、そういう部分で、夜見ている午後7時くらいまでは常時点ているような状況ですので、時間数は相当増えていると思います。管内だと思うんですが、週60時間は下らないというような調査結果も出ているみたいですから、愛別町もそれぐらいの時間は、実質あるのではないかと想定しています。そして、今、中田委員の方からお話いただいたとおり、教育現場における働き方改革の中で、勤務時間を明確に把握できるようなシステムも必要だということで、それも来年度からという予定になっています。その部分につきましては、愛別町においては校務支援システムが導入されており、その中で対応できるというような話も聞いていますので、予算的には増額しないで対応できるのかと思っていますが、勤務時間の縮減に向けては、どんな手当をしていけば良いのか、校長、教頭含めて協議をしていく必要があるかと思っています。特に教頭先生の勤務時間が非常に長いということで、そういう実態を見ているため、なかなか手がいないというようなことで、道教委としてもかなり苦慮されているような現状にあるかと思っています。</p>
前佛町長	<p>行政の予算付けで対応できるものは、何とか考えていきたいと思えますし、また、教育現場の色んな工夫を、皆さん方のお力添えで改革を進めていきながら、子ども達の教育に力を入れられるような体制作りを支援してまいりたいと思っております。</p> <p>その他ございませんか。</p> <p>そんな形で進めていくという方向性でご理解いただけますか。</p>

一同	はい。
前佛町長	次に、学校運営協議会制度への移行ということで、30年度から会議が開かれるということです。総務部局もいるもんですから、コミュニティスクール関係の進捗状況、どんなところまで進んでいるかということ、概略で結構ですので、お願いできますか。
谷田次長	9月の教育委員会議で、学校運営協議会規則を制定しまして、その中に、委員の定数、どんな方を委員にするかとか、学校運営協議会で審議する内容、それに学校評価の関係は、今、学校関係者評価委員会が開かれていると思いますが、その部分を学校運営協議会の方に入れていくというようなことで考えております。それで、これからの議会で、委員の報酬と費用弁償の補正予算、それから非常勤特別職の報酬等の条例改正ということで、別表の中に、学校運営協議会委員ということで入れさせていただきますので、その後、年が明けてから、学校運営協議会委員を選考していくという作業に入っていくかと思っております。それには、規則の中にもあるんですが、校長先生の意見を聴いてということで、校長先生の意向も加味しながら15名以内の委員について選考させていただいて、その委員を教育委員会議にかけて、教育委員会で任命するというようなことになっています。それで、30年度内に、31年度の学校経営方針を承認する場を、第1回学校運営協議会ということで、2月から3月に開催してスタートするというような形になります。以上です。
前佛町長	今、新しい形で、子ども達を地域の中で育てる環境を作るという流れでございまして、新しい取組ですので、色んな取組の中で皆さん方のお知恵を拝借しながら、より良い学校運営と地域の、まちの学校として育てていきたいと思っております。皆さん方のお力添えをお願い致します。学校運営協議会につきまして、ご意見ございませんか。
大山教育長	現実的なコミュニティスクールを拝見したことがなくて、机上のお話しか聞いてないんですが、その中で、地域学校協働本部の推進員、俗にコーディネーターと言いますが、地域と学校をつなぐコーディネーターの方の立ち位置が非常に大切で、そのコーディネーターの方が学校も良く熟知されていて、地域のことも熟知されている方が適任だとよく聞くんですが、なかなかそういう方がいらっしゃらない。例えば、退職をされた先生方をお願いした場合には、学校のことはわかるんですが、地域にこういう分野についてはAさんという方が長けてますよというのがなかなかわからない、逆に地域のことがわかる方は学校のことがなかなかわからない。そういう状況の中でコーディネーターの位置づけ、役割が重要かと思っております。そんなことで、31年度から正式に移行して、31年当初からはちょっと間に合いませんが、年度途中か32年度に向けてそういう人的な配置も考えていかなければならないかと思っております。今のところ、教育委員会の事務局

	職員で対応していこうという意向は持っていますが、制度自体を動かしていくためには、そういう人もやはり必要なのかと思っていますので、頭の片隅に置いていただいて、教育分野と行政が一体となって開かれた学校づくりに向けて邁進できればと思っています。こちらからもよろしくお願ひしたいと思っています。
前佛町長	これは、15名の委員の他にコーディネーターがいて、学校と運営協議会と結ぶ、そういうことですね。わかりました。
大山教育長	話を聞くと、学校側で助かっているのは、運営協議会の委員さんたちが、全国体力テストの計測などをお手伝いしていると。本当は5年生だけなんです、全学年やることによって、5年生になったときにはそれぞれ経験してるので数値も上がっていくだろうということなんです、全学年やることになると、スイッチを押すとか、数えるとかっていう員数が相当足りないらしいんです。そういう意味で運営協議会の委員さんにもお手伝いをいただくだとか、民間の住民の方々にお手伝いをいただくだとか、その橋渡しをするのが、コーディネーターが一番お願ひしやすいという話のようです。そういう場面がこれから増えてくるだろうと思っていますので、重要だと言われています。
前佛町長	あと他にございせんか。 いよいよ平成30年今年度から、委員さんを委嘱し、スタートしてまいりますので、皆さん方のご意見をいただきながら、しっかりと進めてまいりたいと思います。この点はよろしいでしょうか。
一同	はい。
前佛町長	ありがとうございます。 教育振興基本計画の策定ということで、平成32年度からの計画を策定することになります。これは、町の振興計画と連動している部分がありまして、町の部分につきましては、平成32年度から10年間の目標設定で、5年間で見直しをかけるという新しい枠組みに変わってきましたけれども、枠組み関係はこれからですね。
大山教育長	はい。
前佛町長	そんなことで、町の振興計画とまさに連動したような教育振興基本計画になればなと期待をいたしております。振興計画につきましては、皆さん方のご意見ございせんか。 そんなことで進めていくということで、ご了解いただけますか。
一同	はい。
前佛町長	次に、特別支援教育支援員の勤務条件の緩和ということと、それから、人的な部分ですので、中学校公務補の委託化と、この2つの人員確保の部分につきまして議題とさせていただきます。これを見ますと本当に再任用になると、なかなか短時間勤務も支援員の確保って難しいというのはよくわかりました。それでもやはり必要とする支援員ですか

	ら、何とか確保できるような方策ということで進めていただきたいと思います 思っております。支援員の効果はかなり上がってますよね。
大山教育長	そう思っています。
前佛町長	あと、中学校の公務補の関係につきましては、学校で正職員は新たに 採用していませんので、順次、公務補さん退職したら委託にかけてい くというのが、今、流れでございまして、これは、ご了解いただきた いと思っております。この人的確保の部分はよろしいでしょうか。
一同	はい。
前佛町長	あと、小学校の地下タンクの修繕につきましては、財政と打合せさせ ていただきますので、協議は省略をさせていただきます。 スクールバスの運行委託につきましては、町とスクールバスと一括し て進めたい。町のバス、スクールバス、福祉バスも運転手の確保が非 常に難儀をしているというところでありまして、そんな部分で一括委 託できないかという協議を進めさせていただきます。町が直営にしま すと、運転手を町の臨時職員として雇用して運行するものですから、 そこでの自動車事故における補償関係等々につきましては、町が当事 者となるというのが今の形態でありまして、これを運送業の業者に委 託をさせていただきますと、運送業の中での受託事項の中で事故処理 も全部していただくと、そんな形でお願いできないかと。あと、年齢 制限等々も受託業者の形でということで、ある程度人員を一人一人探 すという行政側の難儀を解消できるのかと思っております。ただし、 その分、委託経費は直営よりは高くなるというのは覚悟を前提として おります。そんな形で進めてまいりたいということで、提案させてい ただきました。これにつきまして、皆さん方のご意見ございませんか。 こんな形で進めていくということで、ご了解いただきたいと思いま す。しっかりと協議をさせていただきます。 それでは、次に今後の課題等ということで、それぞれ列記をされてお ります。どれもこれも重要な課題でございます。こんなこともしっか り取り組みながら、また、その優先順位をどのように上げていくか という部分も検討しながら進めていかなければならない部分でござ います。それぞれ項目ありますけれども、委員の皆さん方のご意見を 頂戴いたしたいと思えます。ございませんか。
中田委員	学校の老朽化なんですけど、中学校も古いし、小学校も後からできた けど古くなってきている。とにかく子ども達が減ってきているので、 どっちも教室が空いているんです。今、小中一貫校ってということが言 われている。中学校の子どもが小学校の校舎で勉強するようなことも あるかと思うんだけど、そういう形で色々と使えるものは大事に使っ ていくということで、そして、最終的に小中一貫校で先生も移動しや すくなる。比布は小中一貫校ということで、新たに校舎を建ててやっ

	<p>ているけど、愛別で新たに校舎を建てるだけの力があるかどうかはわからないけど、そうはならないだろうし、小学校は、これから何年か後には100名以下になる可能性もある。そういうことから考えると、今、施設をきちんと直して小中一貫ということで、小学校の校舎をこれから使っていくというようなことも視野に入れて、やっていった方が良くないかと思います。</p>
前佛町長	<p>はい、ありがとうございます。 今現在の児童生徒数には対応できていますから、将来に向けての小学校、中学校の児童生徒数がどのくらい見込めるか、最大何人見込めるか、そんな予測もしながら、校舎の整備をしていかなければならないと思っています。おそらく、建て替えということもありますが、大規模改修するにしても、子どもの児童生徒数を見込んでの大規模改修を考えなきゃならないだろうと思っています。だから、その時には、大規模改修となれば校舎が合併したような校舎整備も視野に入ってくるのかと思っています。財政的なこともありますし、今現在の校舎の耐用年数、有効活用もありますので、そういうことも視野に入れて進めてまいりたいと思っています。</p>
中田委員	<p>教職員の住宅ですが、古すぎて寒いというのもあるけど、設備が古すぎて、今どき先生が、古い住宅に入るかっていったら入らないと思うし、それはそれで仕方がないと思うんだけど、養護学校の先生が、愛別に住んで勤務したいと言っている人がいるっていうんです。けど、入るところが無いんです。道の住宅もあるんだけど、道だっぴつ予算つけてくれるかわからないという中で、前にフェスティバルの手伝いをしてもらっている時に、前の教頭先生が言っていたのは、愛別に住みたい先生いっぱいいるんですけども、なかなか入るところがない。町として住んでくれる先生がいるのであれば、入れる住宅を確保するというのが大事なんじゃないかということです。子ども達が愛別に就職して、住む場所を確保するのも必要なことだと思う。</p>
前佛町長	<p>ありがとうございます。先生方は一定所得以上あるから、国の補助の入っている一般の公営住宅に入居できないわけでありまして、所得があっても入れる特公賃住宅となりますと、今現在、町民の方々に世帯をもって子どもさんがいて、所得があるということで、居住をさせていただいております。先生方の転勤期間がある方には、やはり教員住宅として整備をし、転勤期間過ぎたら空いて、次の方を入れるというような、入居者がある一定期間で変わるというような対応をするのが、教員住宅の本来の目的、形だったんでしょうが、整備ができていない。町の部分では、小学校の教頭住宅と中学校の校長住宅、ちょっと申し訳ないなと思っているところでございます。道教委のあいべつ校の関係につきましては、教員住宅はあるんですけども、非常に古いということで、道の方も直すということはないんですよ。道の教</p>

	<p>員住宅、あいべつ校の周辺にあります。必要ならば町に払い下げますという話で、直すという感覚がないんです。まさに大規模改修でしょうね。一般の公営住宅を愛別町で整備する場合は、1棟4戸とか1棟3戸とした場合に、1戸当たりの建築費用総額は約2,500万円くらいになります。民間の1戸建て住宅と変わらないくらいの公営住宅、特公賃住宅の整備をしているものですから、そのレベルで教員住宅を整備するというにはちょっとならないので、何とか、古い住宅を改修してということですが、これから、どこまで入ってくれるか、ある程度きれいにしなかつたら入ってくれないだろうし。</p>
長屋委員	<p>校長先生、教頭先生は、義務というか、町内に住まないといけないうことがあるんでしょけど、他の先生方にも、是非住んでいただけるような環境を考えていかないと、ほとんど今、通いになっているという話を聞いていますので、いよいよ住宅があっても古くて結果的に使えなくて、どんどん傷んでいくばかりという感じですよ。その辺を検討してもらったほうが良いかと思います。家族で来るという形じゃなくても、単身赴任で来られる先生もいると思うんですよ。</p>
前佛町長	<p>その辺も協議、検討させていただきたい。できるだけ、改修に投資した金額を家賃で賄えるという、そんな形の投資が原則ですから、空かさないで使う。その覚悟である程度の投資をかけていくということで進めていきたい。校長、教頭住宅は、間違いなくいるものから、そこはしっかりと整備に向けて進めていきたいと思っております。</p>
大山教育長	<p>あともう1点が、管理上の話で、教員住宅という名目で管理をしていると長期的には教員しか入れないですよ。短期的にひと夏とか1年近くはということでは認めて入っていただいている経過があるんですが、せっかく新しめの住宅でも空いている部分があったりするので、その辺を所管換えなりして、整理をしていくのも1つの手立てかと思っています。教育委員会事務局と町長部局のそれぞれの担当職員で協議をして所管換えも必要かと思っているんです。なるべく出て行く数くらい入るほうが傷みも少ないでしょうし、そういう部分で何かうまい方法がないかと思っているのが、所管換えでやっていくことかと思っています。その辺も来年度に向けて協議をさせていただければと思っていますところですよ。</p>
前佛町長	<p>町行政が、教員住宅を活用して、一般入居者を募集するとなったときに、2年か3年住みたいんだということで教員住宅を活用させてもらおうと思うんだけど、教員住宅の性格上、教員の来年の人事異動で入るかもしれませんという、1年1年の約束でしか入居できないという部分があるものから、その辺の協議を進めながらということで、今、教育長からお話をいただきました。これからも検討して、住宅の有効活用という部分で進めていきたいと思っています。</p> <p>その他ございませんか。</p>

	<p>あいべつ校の進路って話も聞いてないでしょうか。情報。就職を町内に希望されているとか。</p>
大山教育長	<p>幼児センター長から、今のあいべつ校の2年生の子どもさんが、2人、1年生のときに10月から4ヶ月間くらいですか、週1回、企業内職場実習を幼児センターでお受けした経過があるんです。しかしながら、あいべつ校に通われている生徒は、保育士なり幼稚園の教諭の資格を取ろうとすると非常に困難な状況だと思うんですが、そういうこともあって、無資格の方を雇用するというわけにはいかないという話もされたと聞いています。その中で、学童保育の指導員と同様に、保育の研修を受ければ、保育現場に実働部隊として参画できるというような研修制度もできたと聞いております。正式な資格取得ではありませんが、研修を受けた受講済みの形で雇用につながればと思っているところですが、制度的なことをきちんと調べていないもんですから何ともいえない。それで、その方が2年生のときには、特別養護老人ホームのほうに現場実習に入られたということで、今後のことも含めて、あいべつ校の卒業生のみならず、一般の方々についてもその研修を受ければ、臨時職員としては雇用可能なのかと思います。32年度からは、会計年度任用職員、そのような形で1年間の雇用ができるということなもんですから、その辺も含めた中で色々多く人材を確保しておかないと、学童も幼児センターも大変な時代になるかと思っていますので、検討していきたいと思っています。そして、今年度の卒業生の中で、スターチックさんに就職が、たぶん内定ではないかと思いますが、そんなことをお伺いしています。あとの方は、住宅に近いところ、特に流通関係とか、そういうところが多いかと思っていますが、そんな状況です。</p>
前佛町長	<p>ありがとうございます。</p>
中田委員	<p>あいべつ校の生徒の1人が、きのこの施設で働きたいような感じなんですけど、フルタイムで仕事がしたいということらしいので、うちにも声がかかったんですけど、フルタイムの仕事あるかなということで、今、ヒットの包装センターに研修に行っている。</p>
前佛町長	<p>皆さんご承知のとおり、あいべつ校の生徒さんは、愛別町に対する愛着心、愛別って良いんです、好きなんですって、そういう思いをすごく持っているようなものが伝わってきて、あいべつ校を卒業しても愛別町がふるさとですって色々な発表を聞いても強い思いを持ってもらっています。何とか少しでも応援できればなと思っていますので、皆さん方のお知恵を拝借したいなと思っています。</p> <p>その他ございませんか。</p> <p>なければ、全体を通してございませんか。</p> <p>それでは、協議事項を閉じさせてもらってよろしいですか。</p>

一同	はい。
前佛町長	はい、ありがとうございます。
山中課長	慎重審議、ご審議いただきありがとうございます。それぞれ、来年度事業に生かしていきたいと思います。また、教育委員さんにおかれましては教育委員会から引き続き会議ということで、大変ご苦労様でございます。それでは最後に、前佛町長からご挨拶申し上げます。
前佛町長	皆さん方の貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。愛別町の教育全般、子ども達を含めて、そして社会教育分野も含めて愛別町の教育行政を通して、より良いまちづくりにこれからも皆さん方のご意見を頂戴いたしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

議事録署名委員

三嶋 健嗣

議事録署名委員

教長 大井一成